

アメリカ合衆国大統領 バラク・オバマ 殿

アメリカの未臨界核実験強行に断固抗議し、 核兵器のない世界のため誠実に努力する ことを強く要求する。

2012年12月10日
原水爆禁止神奈川県協議会

米エネルギー省の国家核安全保障局(NNSA)は、12月6日、核爆発を伴わない未臨界核実験を実施したと発表した。貴国政府が、未臨界核実験を行うのは、昨年2月以来で、オバマ政権下で4回目、通算27回目となる。

この核実験は、5日にネバタ州で行われ、高性能の爆薬による爆発衝撃をプルトニウムに加え、反応を検査することが目的とされている。

このような核実験強行に、原水爆禁止神奈川県協議会は怒りを持って断固抗議する。

これらの核実験がたとえ爆発を伴わないものであれ、それが今後とも核兵器を維持し、配備し、必要な場合には使用することを前提にしていることは明らかである。このようなことは、オバマ大統領の「核兵器のない世界」の追求とも矛盾し、世界の諸国民の願いにも、包括的核実験禁止条約(CTBT)の精神にも、「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」との貴政府も賛成した2010年核不拡散条約再検討会議の合意にも反するものである。

米国政府は、核不拡散を呼びかけているが、他の国には核兵器の放棄を迫りながら、みずからは核実験を継続するその姿勢は、到底、世界の世論を納得させるものではない。

核兵器のない世界の実現は、核兵器を禁止してこそ可能となる。いまや、世界の圧倒的多数の国々が核兵器禁止条約の交渉を求めている。私たちは、広島・長崎の被爆者をはじめ、唯一の被爆国の日本国民として、貴国政府が、オバマ大統領が自ら表明した「核兵器のない世界を追求する」立場に立ち返り、いっさいの核実験、核開発を放棄し、核兵器全面禁止条約の実現のため誠実に努力することを強く要求する。

以 上